

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770901904
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホーム 柚木(ゆうのき)
訪問調査日	平成 19 年 11 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901904
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホーム 柚木(ゆうのき)
所在地	高槻市富田町五丁目11番5号 (電話) 072-697-5126

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(平成19年9月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月26日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仙養会北摂総合病院 伊藤診療所 藤田歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古いお寺や、造り酒屋の町「富田」の、昔からの静かな住宅地の中に、当ホームは建っている。代表者は、ご主人への介護が契機となり、一から勉強を始め、大学で福祉を学び現場経験を経て、平成16年にホームを開設した。職員の定着率が極めて高く、献身的であり、認知症介護のあるべき姿を目指している代表者と、開設時からのスタッフである管理者、そして明るい職員との、チームワークが良く出来ている。それに、利用者の家族の協力もあり、気取らない、家庭的な、落ち着いた暮らしを、このホームで見ることが出来る。地域とのつながりも、徐々に出来始めており、これからは、更に交流を深めて、地域と事業者が、支え合うような関係が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しの改善については、新しい様式による現状分析や、アセスメントが採用されていた。職員の計画的な育成についても、介護福祉士受験講習が用意される等の改善が確認出来た。その他の課題についても、改善に向けての取組みが現在も継続している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者がまとめているが、職員の意見も聞きながら行われた。職員は、サービス評価の意義をよく理解して、介護サービスの質の向上に、役立てようとする取組み姿勢がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催されている。会議では、地域包括支援センター、地域の代表者としての民生委員、および家族の代表が出席して、利用者の暮らしぶりや事業所の課題が報告されている。これからは、近隣の自治会の代表にも参加を要請して、地域とホーム及び利用者とのつながりが、一層深まるような取組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や、家族会の時に時間を設けて、家族の意見や要望を聞くようにしている。代表者及び管理者は、家族が遠慮なく、率直な意見が得られるように、雰囲気作りに努めている。家族が積極的に介護に参加している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から、代表者は近隣から理解が得られるように努力をしてきた。地藏盆の行事の会場に事業所を提供したり、地元との良好な関係作りに努めている。併設のデイサービスを含め、徐々に、地域との関係作りが前進して来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域社会との連携や地域に根ざしたグループホームの運営を目指した独自の理念をつくりあげている。現在の理念はホームが目指すサービスを明確に表現できている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なスタッフ会議や、日常の業務引継ぎ時に、お互いに行動を確認しながら、理念の実践に向けた取組みを職員一人ひとりが行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者や管理者及び職員は、近隣との付き合いを大切に考えて挨拶を交したり、町内の行事の会場として、施設を提供するなど、地域との良好な関係作りに積極的に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者はサービス評価を、ホームの運営改善に活用するなど、積極的な取組み姿勢を持っている。今回の自己評価は職員も参画して行われた。改善課題についても着実に前進していることが確認出来た。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センターおよび民生委員、家族代表が参加して、定期的開催されている。ホームの現状報告や、参加者と家族代表との意見交換も行われている。働きかけはしているが地元自治会からの参加は出来ていない。	○	運営推進会議が形式的な物にならないように、会議に地元自治会や地区の福祉委員の出席を要請などの働き掛けを期待する。そうする事で、事業所と利用者が地域に密着することを目指した、運営推進会議開催の本来の目的が達成されると考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢介護担当部門や地域包括支援センターの担当者とのコミュニケーションを確保して情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを、職員が丁寧に説明するように努めている。ケアプラン見直し時には、家族の意見や要望を聞くようにしている。「つむぎの家」便りを定期的に発行して行事計画等を家族に案内している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や、家族会の時に家族から要望を聞くように努めている。代表者及び管理者は、家族から遠慮なく率直な意見が得られるような、雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が極めて少ないので、すべての職員と利用者との、馴染みの関係が良く保たれている。家族もこの点については、不安を持っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士資格取得研修を開催するなど、代表者は職員の育成に努めている。外部の研修についても、出来る限り職員が受講できるように配慮が行われている。研修内容の職員間の共有にも心掛けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の見学を受け入れたり、当方からも他のグループホームを見学をする場合がある。同業者との連絡会等での情報交換の機会もあり、他での取り組み事例を、事業所のサービス向上に活かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入居している利用者は、併設のデーサービスの利用者から当ホームに入居した経緯の利用者が多い。本人も家族も良く納得してから、グループホームのサービスを開始するように心掛けている。他の利用者との関係にも気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少人数の利用者であるから、職員の目が良く行き届いている。職員が利用者から、味噌の作り方を学んだりした事もあるなど、職員と利用者が、家族も含めて支えあう関係が、出来ているように感じられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で確認した、本人の意向や希望を、アセスメントの記録に加えながら、その情報を職員間で共有するように努めている。利用者は落ち着いた気持ちで、本人の意向を職員に伝えながら過ごしていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成のための、要件整理・情報整理が一覧できる様式を採用して、わかり易い方法となっている。介護計画の作成に、家族が積極的に、参加しているように思われる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとの、担当職員が日常の変化を整理して、定期的にスタッフ会議で、意見を交換するカンファレンスを行っている。管理者は認知状況の観察方法等にも、データ集計するなどの工夫を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ボランティア行事やレクリエーションは、1階にある併設のデイサービスと一緒にいる場合がある。家族の希望がある時は、自宅や病院への送迎も、ホームとして柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科)の、定期往診を受けるようにして、早期に適切な対応が受けられるようにしている。協力歯科医の検診を、年1回受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には、口頭で説明を行うようにしている。重度化の対応が必要になった場合には、本人や家族の希望を確認しながら、かかりつけ医などの関係者とよく相談して、出来るだけの対応を行っている。取り組み指針を文書化するまでは出来ていない。	○	現実には、個々の事例ごとに、対応が行われているが、今後はホームとしての、対応の考え方をまとめて、重要事項説明書の付帯資料として、「重度化や終末期についての指針」を文書化されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する声かけは、親しみの中にも、本人や周りの者によく配慮された、対応になっていた。個人情報に関する扱ひも、職員に徹底されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が少人数であるために、一人ひとりのペースに、ゆっくと、職員が対応出来ているように見受けられる。アセスメントの段階で、本人の望む暮らし方が、丁寧に把握されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設のデイサービスと、同一メニューであるが、夕食は2階の台所で調理する。出来る能力に応じて、利用者も参加している。ダイニングキッチンであるために、食事作りの雰囲気は家庭と同じである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、併設のデイサービスと共用であるが、週3回の入浴ができています。職員は、利用者が安心して、ゆっくりと入浴できるように、入浴剤を使うなどの、いろいろな工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割表を作るなど、利用者が日々の暮らしの中で、無理のない、家事に参加したり、新聞を読んだりする場面作りを、職員が工夫している。調査当日も、居間でのにぎやかな会話や、笑い声が聞こえていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、天気の良い日には、利用者が、出来るだけ外の空気に触れるように、職員は心掛けている。自宅を訪問する支援も行っている。季節ごとの、行事による外出も実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をしていない。職員は出来るだけ鍵をかけないで、介護を行うように努力している。職員が常に目の届くところにいるので安心である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期避難訓練を年間2回行っている。2階から1階まで、階段を利用して避難する訓練を行っている。近隣の働きかけは充分ではない。	○	訓練時には、近隣に呼びかけたり、あるいは、運営推進会議の時に、訓練計画を説明するなどして、万が一の災害時に、近隣の協力が得られるような、普段からの働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は併設のデイサービスと、同一メニューとなっている。食事・水分摂取量は、利用者毎の状態に応じた、支援が行われている。利用者個々の、健康状態に応じた栄養バランスに配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、多くの時間を過ごしている居間と食堂は、こじんまりしているが、椅子などにも、疲れのないような工夫がしてあり、利用者が落ち着ける場所となっている。居間は、天井が高く、採光窓があり、明るい感じがする。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれて、利用者の馴染みの品物や、写真が置かれている。職員が家族の協力を得ながら、利用者の過ごし易い居室づくりに、努力している様子が伺える。		